東串良町立池之原小学校　学校だより
はばたけ！けやきっ子
令和6年度
2月18日発行

優しい言葉は花 ～言霊の幸(さき)わう国～

校長　上葉智明

Kind hearts are the garden, kind thoughts are the roots,
kind words are the blossoms, kind deeds are the fluits.
～ 優しい心は庭であり，優しい思いは根であり，優しい言葉は花であり，優しい行いは果実である。～

19世紀英国ヴィクトリア時代の美術評論家であり社会思想家ジョン・ラスキン（John Ruskin）の言葉です。美術評論家らしい，優しくしっとり心に響く名言ですね。「優しい○○は◇◇である」のように，各自で続く言葉を作ってみてもおもしろそうですね。

日本最古の和歌集『**万葉集**』に，「**しきしまの大和の国は　言霊の幸(さき)わう国ぞ　ま幸(さき)くありこそ**」という柿本人麻呂の歌があります。「日本は，言葉がもつ力によって幸せになっている国です。これからも平安でありますように」という意味だそうです。古来，日本は「言霊の幸わう国」つまり，「言葉の霊力が幸福をもたらす国」と信じられてきました。「言霊」とは，言葉に宿っている不思議な力のことで，口から発せられた瞬間その言葉に生命が生まれ，そのことが実現されると考えられていたそうです。不吉な言葉を遣うと，現実になってしまうかもしれないので，不吉な言葉を控えていることが現在でも多いようです。結婚披露宴等のお祝いの席で，「別れる」「離れる」「切れる」等を縁起の悪い「忌み言葉」として遣わず，宴の終わりは発展する縁起の良いイメージの言葉「おひらき」（「御披良喜」と記すこともあるようです）を遣うことが一般的です。葬儀では，「ますます」等の同じ音が続く重ね言葉は不幸の連続を連想させるため，「もっと」「一段と」等の言葉に言い換えて遣います。今の時期に，受験生やその家族の前で「すべる」「落ちる」等の言葉は控えておきたいものですね。

そのような「言霊の幸わう国」日本で暮らしている我々は，言葉をもっと大切に遣っていかなければならないのではないか，という思いを強くするのは私だけではないと思います。

右に紹介する『**ひとつの言葉**』は，多くの学校で採り上げられることの多い詩です。作者は北原白秋という説がありますが，詳細は不明です。また，詩の内容（言葉）も採り上げる人によって，若干違いがあるようです（ここでは，30年程前に私が勤務していた某小学校の廊下に掲示されていたものを紹介します）。

言葉は，人を癒したり人を幸せな気持ちにしたりします。逆に，人を傷つけたり人を不安にさせたりすることもできるのが言葉です。言葉は時には薬になり，時には毒にもなります。言葉は時には人を温かく包む毛布になり，時には鋭利なナイフにもなります。

ひとつの言葉
ひとつの言葉でけんかして
ひとつの言葉で仲直り
ひとつの言葉で頭が下がり
ひとつの言葉で心が痛む
ひとつの言葉で楽しく笑い
ひとつの言葉で泣かされる
ひとつの言葉はそれぞれに
ひとつの心をもっている
きれいな言葉はきれいな心
優しい言葉は優しい心
ひとつの言葉を大切に
ひとつの言葉を美しく

一度発した言葉は取り消すことはできない生き物のようなもの。だから，子供たちにはひとつひとつの言葉を大切に遣ってほしい，そのような大切な言葉で人を傷つけるようなことはしないでほしいと心から願います。

そのために，子供たちにとって最も身近な教育的環境である我々大人（保護者や学校の職員）自身が，言葉を大切に遣っているか，子供たちの前で恥ずかしい言葉を遣っていないかを常に振り返る必要があると思います。

日新公いろはうた

願わずば　隔てもあらじ　いつわりの　世にまことある　伊勢の神垣

【大意】　偽りの多い世の中，伊勢の皇大神宮は偽りのない神である。正しいものは正しく，曲がったものは曲がったようになさる。願う側が心のうちに無理な願いを起こさなければ分け隔て隔てなく願いをかなえてくださる。

食の大切さを知り郷土に誇りをもてる子供たちに

１月２０～２４日は「鹿児島をまるごと味わう学校給食週間」でした。この取組は，県が平成 14 年度から，学校給食記念日の１月２４日を含む１週間を「鹿児島をまるごと味わう学校給食」と定めたもので，新鮮で安心・安全な県内産の食材を活用した学校給食を実施しています。

ポスターを貼る給食委員会児童

期間中，本校では給食委員会の児童が，毎日給食時間に放送したり，各学級前の廊下等に給食の大切さを知らせるポスターを貼ったりしました。また，担当職員による読み聞かせ等も実施しました。

これらの取組を通して，食の大切さを知り郷土を大切にしようとする心が育ってほしいものです。

昔の遊びを楽しみました

１月１１日(土)の土曜授業は，１年生が活科の学習で「昔の遊び」を体験しました。インフルエンザ等の影響により今年は例年お招きしている地域の支援ボランティアの方々のご参加が叶いませんでしたが，竹とんぼ・お手玉・こま回し等の昔の遊びを体験しました。

これらの昔遊びは手作りであったりみんなで遊べたりしてＰＣやタブレット等のゲームにはない良さが昔の遊びにあります。ずっと大切に受け継いでいきたいものです。

けん玉で遊ぶ１年生児童

町小中学校音楽会

１月１７日(金)，東串良町小中合同音楽会が東串良町総合センターで開催されました。

本校からは３年生が出演し，合奏や合奏を披露しました。大勢の前で，練習の成果を十分に発揮することができました。子供たちは練習を通じ協力することの大切さを学びました。たくさんの応援ありがとうございました。

今年度も残り一ヶ月あまりとなりました。年度当初に行った各種健康診断の結果，病院での受診を勧められた子供たちは受診・治療が終わったでしょうか。症状が出ていないので受診・治療を後回し，先送りになっていないでしょうか。例年，２～３月が比較的歯科や眼科の受診・治療がしやすいようです。必ず，３月中に受診・治療を済ませ，健康な身体で４月からの新年度を迎えられるようにしてあげてください。

特に，むし歯の治療がまだ終わっていない２７名の児童が，健康な歯で進学・進級の日を迎えられるよう保護者の皆様のご理解ご協力をよろしくお願いします。

学校協力券は２３７２枚集まり，**１１，８６０円**が学校に支給されました。ＰＴＡ活動費として大切に使わせていただきます。

ご協力ありがとうございました。

レッツビギン8

池之原小特別支援教育コーディネーター
わかば学級い組担任　木佐貫 陽子　文責

前号で「母性性」が豊かに与えられ，「父性性」でしつけられるというという両面性が学校生活・社会生活をスムーズに過ごすために必要だとお伝えしました。

「父性性」とは，学校や社会に向かってもっていくもので，家庭内だけでなく，自分を取り巻く環境にも広く存在していきます。

どんなことがあっても，そして，子どもの年齢が何歳であっても，乳幼児から少年，思春期の若者まで必要なら必要なだけ，まず母性性を十分に与えること、そしてそのあと順次，徐々に平行して父性性が機能していく，そんな育て方をすることが何より重要です。それが子どもたちの社会性の発達や人格の成長に決定的に影響するようです。

子どもが健全に育っていく過程を大切にしていきたいですね。

参考文献『はじまりは愛着から』　佐々木　正美　著

2・3月の主な行事

２月

15 日(土)　町教育推進大会（町総合センター）
18 日(火)　県下一周駅伝応援
20 日(木)　ＰＴＡ理事会
27 日(木)　持久走大会・学級ＰＴＡ

３月

2 日(日)　ＰＴＡ愛校作業
6 日(木)　学校評議員会
8 日(土)　土曜授業　お別れ遠足
14 日(金)　東串良中体験入学（６年生）
18 日(火)　卒業式予行
21 日(金)　卒業式会場設営・準備
24 日(月)　卒業式(5・6 年生のみ登校)
25 日(火)　修了式・離任式
26 日(水)　春休み～４／６